



本一本を丁寧に植え付け 小学校サラダ玉ねぎ苗植え体験

12月3日(金)、津奈木小学校3・4年生65人がサラダ玉ねぎの苗植えを体験しました。町が進める「つなぎFARM」の取り組みの一つで、農業の素晴らしさや食の大切さを学んでもらおうと、JA青壮年部と協力して行っています。児童は津奈木保育園近くの耕作放棄地を解消した畑で作業。指導を受けながら一本一本丁寧に植えていました。



↑植えたサラダ玉ねぎは5月ごろに収穫予定です

手ごねでまんじゅうづくり スローフード料理講習会

12月3日(金)、農業就業改善センターでスローフード料理講習会が開かれ、酒まんじゅうと豚まんを作りました。参加者12人は(有)職彩工房たくみの尾崎正利さん指導のもと生地を作り、あんを丸めて包んでいきました。参加者が持ち寄った小豆あんや芋あんでも作られ、ふっくらと蒸し上がったやさしい味わいのまんじゅうが出来上がりました。



↑手作業であんを丸める参加者

↓町と協定を結ぶ株式会社食文化の萩原章史代表取締役社長(中央)



小学生がマーケティングを学ぶ 子どもの農業を通じたマーケティング学習に関する連携協定

12月3日(金)、株式会社食文化と津奈木町が、「子どもの農業を通じたマーケティング(市場戦略)学習に関する連携協定」を結びました。今後は同社が小学生に Web マーケティング学習を行い、実際に EC サイトの商品ページを作成します。小学生は販売促進の方法(SNSの活用方法など)などを学び、育てたサラダ玉ねぎをサイトで販売する予定です。

↓町長からお祝いの花束や賞状などが贈られました



100歳超えてもほほえみを 森山タマエさん100歳

12月6日(月)、森山タマエさん(日添)が100歳の誕生日を迎え、町長がお祝いに訪れました。70歳まで甘夏を栽培していた森山さん。95歳まで毎日の散歩が日課で、旧赤崎小学校まで歩いていたそうです。家族からは「一世紀生き抜いたことを誇りに思う。いつまでも元気でいてほしい」と話しました。12月末時点で本町に100歳以上は7人います。

ピンクの着物でおなじみ 三遊亭好楽落語会

テレビ「笑点」でおなじみの落語家・三遊亭好楽さんの落語会が11月28日(日)、つなぎ文化センターで開かれました。(公財)熊本県立劇場と町教育委員会が、優れた芸術を鑑賞する機会を提供する自主文化事業で行われたもの。身振りや表情などで人物・情景を表現して生き生きと演じられるこっけい話に、会場は大きな笑いに包まれました。



↑巧みな話術で笑いを誘った三遊亭好楽さん

これからもますますお元気に 長濱タエさん100歳

12月1日(水)、長濱タエさん(竹中)が100歳の誕生日を迎え、町長がお祝いに訪れました。目に涙を浮かべながら「ありがとうございます」と答えていました。現在は施設に入所中ですが、食事は好き嫌いなく食べるそうです。家族からは「100歳になっても元気に過ごしている姿を見ると元気がもらえる。未永く健康に過ごしてほしい」と話していました。



↑100歳を迎え笑顔を見せる長濱さん



↓被災者にシチューを配る生協くまもと家庭会



温かい料理に思わずニッコリ 男島仮設団地地域交流会

11月21日(日)、令和2年7月豪雨の被災者などに心温まる料理を食べてもらおうと、男島仮設団地(みんなの家)前で地域交流会が開かれました。生協くまもと家庭会などが敷地内に屋台を設け、具だくさんのシチューやコーヒー、わたがしなど計7品を振る舞いました。訪れた住民は温かい料理に思わずほほを緩めているようでした。

↓園児がベンチに座って記念撮影



木製ベンチでゆったり座って 熊本豪雨復興支援資材配布

11月29日(月)、(公社)熊本県緑化推進委員会が津奈木保育園へ木製ベンチ3台を寄贈しました。令和2年7月豪雨の復興を支援するため、「緑の募金」を活用したもの。同会はこれまで熊本地震後の樹木やプランター、木製遊具などを被災地の復興住宅や家族などに届けています。園児からは「ありがとうございます。大切に使います」とお礼を述べました。